

2025年度 城南学園中学校・高等学校 学校評価のまとめ

1 自己評価

(1) 組織 学校評価委員会（校長、高校教頭、中学校教頭、事務局長、学校評価委員会担当教諭）

(2) 開催 2026年3月2日（月）

(3) 評価のために使用した資料

① 2025年度学校教育診断の結果（概要は資料1）

・実施：2025年12月

・対象：中学校・高等学校の全生徒、在校生の全保護者、全常勤教員

② 生徒による授業評価の結果

・第1回：2025年7月

・第2回：2025年12月

③ その他

・「2025年度 教育の基本方針と取り組みの重点」（資料2）、校内各組織の総括（目標の達成状況）、生徒収容状況、進路決定状況、出席統計、部活動入部状況・活動実績等

(4) 内容

① 上記資料をもとに、年度当初に教職員に示した「教育の基本方針と取り組みの重点」（学校教育目標）について自己評価を行った。（下表）

② 自己評価に基づき学校関係者評価委員会の資料を作成した。

(5) 自己評価の結果（3月末時点で修正）

目標と取り組みの重点（P）	取り組みの状況（D）	自己評価（C）
<p>1 学校の全体像に関わって</p> <p>① 10年先を見通した学校の将来像について検討する。</p> <p>② キャリアデザインコースを軌道に乗せる。</p> <p>③ 建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みの充実に努める。</p> <p>④ 一人一台タブレットを活かした教育を推進するとともに、業務の改善を図る。</p>	<p>① 各校種連携や小中・高短・高大接続、広報戦略などについて議論。大学入試情勢が変わりつつある中、特進コースのあり方について議論、研修。</p> <p>② 4ゾーン（栄養調理、健康スポーツ、文化・ビジネス、創造エンタメ）に沿った取り組みを開始。</p> <p>③ 中学校の「10×10プラン」の実施。各コース、学年の当初目標に「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を掲げ、取り組みを進めた。</p> <p>④ ICT教育の推進を継続。校務支援システム（シームス）、教育プラットフォーム（クラッシー）のさらなる活用。紙出席簿廃止に向けて試行期間を経て、次年</p>	<p>① 前進した</p> <p>② 概ね達成した</p> <p>③ 前進した</p> <p>④ 前進した</p>

<p>⑤学校週五日制導入を機に、効率的な教育活動を心掛けるとともに、生徒の自主自律の実現を促す。</p>	<p>度より廃止を決定。</p> <p>⑤土曜を休みにすることでオンオフの切り替えを徹底。 大学（院）生によるメンター制度を導入。</p>	<p>⑤概ね達成した</p>
<p>2 学力の向上と進路実現100%をめざす (評価指標) 模試の結果向上 進路実現率高水準維持</p> <p>①言語活動の充実など授業の改革を進めるため、教科における研究活動を活性化し、研究授業や相互の授業参観を組織的に行う。</p> <p>②観点別評価を活用し、生徒の学習意欲を高める。</p> <p>③生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を拡充する。そのため学園内外の教育機関・施設等との連携を深める。</p> <p>④基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導に努める。</p> <p>⑤大学（院）生によるメンター制度の活用により、学習機会の拡充を目指す。</p> <p>⑥3年間の進路指導計画に基づき、進路指導部・学年・コースが連携して1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。</p>	<p>模試の結果、教科、コース等で分析行った。中学校、高校特進コースはベネッセの方にも分析を仰いでいる。 進路実現率は100% (昨年度比+0.9ポイント)</p> <p>①各教科が研究授業を実施。期間を設定して相互の授業参観を行った。学習指導要領に対応した授業が行われているか、定期的に点検を行った。</p> <p>②観点別評価についての検証を行った。授業評価アンケートの設問を観点別評価に則した内容で実施した。</p> <p>③中学校の「10×10プラン」、総合的な学習の時間等。特進コースの「アカデメイア」、他コースを含めての「ポリテクニーク」。幼児教育コースのインターンシップや夏のボランティア（預かり保育）、東住吉区社会福祉協議会主催「防災イベント」、発表会、造形コンテスト等。 進学スタンダードコース・キャリアデザインコースのゾーン別体験学習や進スタ・キャリアセミナー等。 英語暗唱弁論大会「FIGHTERS」。 学園内及び近畿大学、帝塚山大学、森ノ宮医療大学、東住吉森本病院、矢田駅前商店街、株式会社和田萬等との連携。</p> <p>④学習時間調査を実施。 教育プラットフォーム、手帳の活用。</p> <p>⑤平日放課後、土曜午前メンター制度を導入。活用法について、メンターよりレクチャーを行った。</p> <p>⑥当初の予定通りに実施した。</p>	<p>学力向上はコースで差がある 進路実現率100%を達成</p> <p>①前進した</p> <p>②前進した</p> <p>③前進した</p> <p>④前進した</p> <p>⑤概ね達成した</p> <p>⑥前進した</p>

<p>⑦中高六年一貫教育の強化に努める。</p> <p>⑧国公立大学と関関同立の合格者10名（実数）以上、大阪総合保育大学への進学者10名以上、大阪総合保育大学短期大学部への進学者35名以上をめざす。</p>	<p>⑦中学校会議に高校特進コース教員が参加、高校特進コースの会議に中学校教員が参加することにより、相互理解を深めた。 アカデメイア・ポリテクニーク・FA・ビブリオバトル・自習合宿での生徒交流を図った。</p> <p>⑧国公立大学と関関同立に13名（実数）が合格。 大阪総合保育大学に8名進学。 大阪総合保育大学短期大学部に32名進学。</p>	<p>⑦前進した</p> <p>⑧前進した</p>
<p>3 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底 （評価指標） 学校教育診断の結果80%以上欠席・遅刻率の低下</p> <p>①朝の読書活動の充実と活性化を図り、自ら学ぶ姿勢を育成するとともに読解力・表現力の向上にも資する。</p> <p>②年間重点目標として「挨拶」を掲げ、全教職員で指導することにより、生徒の自発的な挨拶を促す。授業規律、服装、欠席・遅刻、交通マナー、ネットマナー等の指導を組織的に進め、基本的な生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る。</p> <p>③学校行事における生徒の主体的取り組みを促進する。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など生徒の自主的な活動を促進する。</p>	<p>学校教育診断の結果 「校則を守り、規則正しく生活している」 中学生79%、高校生89%、教員80% 中学生保護者88%、高校生保護者90%</p> <p>欠席・遅刻率 中学生は欠席、遅刻ともにやや増加 高校生は欠席、遅刻ともにやや減少</p> <p>①一年を通じて「朝の読書」を実施。 全校でビブリオバトルに取り組むとともに、代表者が校外のビブリオバトルに出場。</p> <p>②生徒指導部が中心となり、朝の挨拶を実施。定期的に全教員で登下校指導等を実施。全校全校生徒にネットマナー、薬物乱用防止について外部講師を招き指導。 学年、生徒指導部で欠席・遅刻指導。</p> <p>③当初の予定通り実施した。 学校教育診断での関連項目（「学校行事は、みんな楽しく行えるよう工夫している」、「本校の自治会活動は活発である」「本校の部活動は活発である」）は高い数値。 （部活動参加率） 中学校76%（昨年度比－16ポイント） 高校56%（昨年度比－4ポイント） （中学校の部活動） 空手道部、テニス部、体操部が全国大会に出場。 ソフトテニス部が近畿大会に出場。 （高校の部活動） 空手道部、テニス部が全国大会に出場（空手</p>	<p>生徒、保護者、教員ともに概ね達成</p> <p>欠席率、遅刻率は達成できず</p> <p>①前進した</p> <p>②前進した</p> <p>③前進した</p>

	道部は個人形で優勝)。 バレーボール部、ソフトテニス部、体操部が 近畿大会に出場。	
<p>4 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上 (評価指標) 学校教育診断の結果80%以上 授業評価アンケートの結果</p> <p>①各教科で授業評価アンケートの結果も活用して授業の充実・改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。</p> <p>②新しい生徒指導提要に基づき、生徒の人格や個性を尊重し、社会の中で自分らしく生きることが出来る存在へと成長する過程を支える生徒指導の実践を心掛ける。</p> <p>③すべての教育活動を通じて人権に関する教育の充実を図る。教育を受ける権利の保障、人権が尊重された教育を進めるために、特に、いじめの未然防止に努める。面談などを通じて生徒の状況把握に努め、相談等に丁寧に対応することで生徒と教員の距離を縮める。</p> <p>④体罰、ハラスメントの根絶に向けた取り組みを徹底する。</p> <p>⑤様々な方法で保護者への情報提供に努め、保護者からの相談等に丁寧に対応することで連携を深める。</p>	<p>学校教育診断の結果 「授業内容に満足している」 中学生74%、高校生85% 「入学してよかった」「入学させてよかった」 中学生90%、高校生86% 中学生保護者92%、高校生保護者90%</p> <p>①授業評価アンケートの結果を教科にフィードバックした。 授業評価アンケートの設問を観点別評価に則した内容で実施した。</p> <p>②生徒指導部が具体的な指導の中で、「傾聴」を心掛け、部員を中心に教員全体に意思統一を図った。</p> <p>③3年間の計画に基づき、人権HR、人権教育映画、人権講話などを実施。 年3回の定期面談、いじめに関するアンケート調査を実施、いじめ防止対策委員会の開催等でいじめの防止に努めた。 学校教育診断の結果は、中学生が昨年度よりやや低下、高校生は同程度。</p> <p>④生徒面談、教員面談等で情報収集することにより、防止に努めた。</p> <p>⑤教育プラットフォーム、学年だより、HP、年2回の懇談会などで連携を図った。 学校教育診断での関連項目(「学校は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」「学校は、保護者の相談に快く応じている」)は昨年度より幾分低下。</p>	<p>課題もあるが概ね達成</p> <p>①前進できず</p> <p>②前進した</p> <p>③前進できず</p> <p>④前進した</p> <p>⑤前進できず</p>
<p>5 中学校50名、高等学校230名の定員充足</p> <p>①広報活動の「見える化」を図る。</p>	<p>中学校34名、高校149名が入学予定</p> <p>①中学校訪問、塾訪問の報告書を全教員で共有。 入試対策部・広報室と各コース長を含む教員</p>	<p>中学校・高校ともに達成できず</p> <p>①前進した</p>

<p>②中学校及び高校各コースの取り組みを積極的に広報するとともに、学習成果の発表の場の公開に努める。</p> <p>③部活動において、他との交わりを深め生徒募集に繋げる。</p> <p>④中学生の内部進学率の向上に努める。</p> <p>⑤入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に全教職員一人一人が強く意識して広報活動を推進する。また、広報活動への生徒の参画を一層促進する。</p>	<p>団との間で情報交換会を実施。</p> <p>②募集イベントにおいて、生徒の学習成果の発表を兼ねた生徒による学校説明、コース説明を実施。 中学校・高校ともに、受験生・保護者対象公開授業を実施。 募集対策として、SNSによる発信を強化。</p> <p>③小学生、中学生を招いての試合、合同練習を実施。 「部活動体験」を実施。</p> <p>④担任以外の教員も生徒との面談を行った。 31名中17名(55%)が内部進学(昨年度88%)</p> <p>⑤外部相談会において、他教員の協力を仰いだ。 生徒広報部(オープンキャンパスサークル)が募集イベントで活躍。 校内で開催する募集イベントへの生徒参加を強化。 募集イベントで、ダンス部・空手道部の協力を得た。</p>	<p>②前進した</p> <p>③前進した</p> <p>④前進できず</p> <p>⑤前進した</p>
--	--	--

2 学校関係者評価

(1) 組織 学校関係者評価委員会

構成(敬称略)

大阪総合保育大学短期大学部部長・菅正隆(委員長)

城南学園小学校校長・太田友子

保護者会代表・庫本尚美

同窓会代表・森田由利子

地域代表・早苗順一

学校委員(校長、高校教頭、中学校教頭、事務局長、学校評価委員会担当教諭)

(2) 開催 2026年3月9日(月)

(3) 評価のために使用した資料

自己評価の結果及び学校評価委員会で使用した資料、学校関係者評価委員会設置要綱

(4) 内容

- ① 校長及び高校教頭、中学校教頭から、「2025年度 教育の基本方針と取り組みの重点」に沿って、自己評価の結果を報告し、質疑応答と協議を行った。
- ② 協議の内容を事務局で取りまとめた。(主な協議の内容は資料3)

3 今後の改善方策（A）

1 学校教育目標のマネジメントサイクルの推進

- 自己評価及び学校関係者評価の結果等をもとに、新年度の学校教育目標である「教育の基本方針と取り組みの重点」を策定し、年度当初に教職員に周知する。
- 学校教育目標を踏まえ、校内各組織が年度目標と実施計画を作成して取り組みを進める。
- 10月末にその進捗状況、2月末に達成状況の報告を求め、それを受けて年度末に学校教育目標の自己評価を行う。このマネジメントサイクルを効果的に運用することにより、高いレベルでの目標の達成をめざす。

2 主要教育課題に対する取り組み

(1) 学校の全体（未来）像に関わって

- ①長期的視点とともに中期的視点も持ちながら、学校の将来像を検討する。
- ②キャリアデザインコースを軌道に乗せる。
- ③建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みを充実させる。
- ④一人一台タブレットを活かした教育の推進、業務の改善を行う。
- ⑤学校週五日制を基盤に、効率的な教育活動を心掛け、生徒の自主自律の実現を促す。
- ⑥不登校生への対応を検討する。

(2) 学力の向上と進路実現100%をめざす

- ①研究授業や相互の授業参観を組織的に行い、教科における研究活動を活性化する。
- ②観点別評価を活用し、生徒の学習意欲を高める。
- ③学園内外の教育機関・施設との連携によって拡充してきた生徒の体験的な学びを円滑に進めるとともに、学習成果の発表の機会を充実させる。
- ④基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じた指導をより充実させる。
- ⑤大学（院）生によるメンター制度を活用し、生徒の学習機会を増やす。
- ⑥進路指導部と学年、コースが緊密に連携して、1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。同時に、個に応じた進路指導を心掛ける。
- ⑦中高六年一貫教育の強化に努める。
- ⑧数値目標を掲げて学力の向上に取り組む。併せて目標達成のための具体的方策を検討し実施する。

(3) 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底

- ①朝の読書により、読書活動の活性化を図る。
- ②年間目標を掲げて全校で取り組む。欠席・遅刻については学年で数値目標を掲げて減少に努める。
- ③学校行事の企画段階への生徒の参画を進め、生徒の主体的取り組みを促す。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など生徒の自主的な活動を促進する。

(4) 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上

- ①授業評価アンケートの結果を教科、当該教員にフィードバックすることで授業の充実改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。
- ②新しい生徒指導提要に基づいた生徒指導の実践を行う。
- ③すべての教育活動を通じて人権教育を推進する。特に、面談やアンケート調査などによって生徒の状況を把握し、いじめの未然防止と早期発見に努める。また、生徒の相談に丁寧に対応することで生徒と教員の距離を縮める。
- ④体罰、ハラスメントの根絶を目指す。
- ⑤様々な方法で保護者への情報提供に努め、保護者からの相談に丁寧に対応することで、教育方針や教育内容への理解を深める。

(5) 中学校及び高等学校の定員充足

- ①広報活動の「見える化」を図る。

- ②中学校および高校各コースの取り組みの広報と、学習成果発表の場の公開を推進する。また、効果的な生徒募集の取り組みについて検討し実施する。
- ③部活動において、他との交わりを深め、生徒募集に繋げる。
- ④全校を挙げて内部進学率の向上に取り組むとともに、内部進学を促進する制度面の検討を行う。
- ⑤入試対策部及び広報活動推進委員会を中心に、全教職員による広報活動を推進する。また、広報活動への生徒の参画を一層促進する。

4 参考資料

(資料1)

学校教育診断票の結果について

城南未来委員会

昨年十二月に実施いたしました「学校教育診断票」の結果について概略を報告いたします。

【データの回収】

生徒四三五名、保護者四〇七名のデータを回収しました。保護者の皆様方からは九〇%を超える高率の回答をいただき、より信頼度の高いデータとなりました。ご協力、心より感謝申し上げます。

【保護者データ】

設問のうち、肯定意見（「よくあてはまる」「ややあてはまる」をあわせた意見、以下同様）が八〇%以上であったのは、中学では一八問中一三問、高校では一五問と、全体として高い評価をいただきました。特に、中学で「本校には、他校と異なる城南学園らしい特色や良さがある」・「学習評価は適切である」が九五%と最も高い肯定意見を、高校では「学校施設設備は、学習環境面で満足できる」などが九〇%を超える高い肯定意見をいただきました。最も気になる「入学させて良かった」でも、中学で九二%、高校で九〇%の肯定意見をいただきました。

一方で、他の設問と比べると肯定意見がやや少ない結果だったのが、中学の「学校は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」が六九%、高校の「先生はいろいろな問題を見逃さず対応している」が七六%で、さらなる改善の必要性を感じております。

【生徒データ】

高校では、全体として肯定意見が八〇%以上となったのは一八問全問で、昨年度の一七問を越え高評価となりました。なかでも、「学習の評価（成績のつけ方）は適切である」は肯定意見が九四%に達しました。

中学は、一八問中一四問で肯定意見が八〇%以上で、昨年度の全問八〇%以上には及びませんでした。高い評価となりました。「本校には、他校と異なる城南学園らしい特色や良さがある」の九六%を筆頭に、「本校の部活動は、活発である」が九五%の非常に高い評価でした。

一方で、中学で「授業内容に満足している」などが七四%、高校で「本校には、いじめを許さない、いじめがあったとき相談しやすい雰囲気がある」が七四%の肯定意見で、高い評価ながら他の設問の評価ほどではありませんでした。

* * * *

今回の「学校教育診断票」で得られた結果を、学年・校務分掌・コースなど各部門で慎重に検討し、また過年度のデータを照合しながら、生徒の動向把握に教員全員で努めて参ります。そして、より高い信頼を得られる教育環境の整備に力を注いで参りたいと思っております。

保護者の皆様におかれましては、本校のこの姿勢にご理解をいただき、今後も変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（2026年2月発行の校報『城南第91号』より転載）

(資料2)

2025年度 教育の基本方針と取り組みの重点

I はじめに

学校教育の目標は、生徒が将来、社会人として自らの使命を果たし、自らの幸福を実現できるよう、その基盤となる学力と健康な心身、さらには真に自立的な態度を育成するところにある。これは、本校創立者の設立の思いである「社会で活躍できる女性の育成」という言葉に集約される。本校の建学の精神である「自主自律」「清和気品」は、教育目標を達成するための具体的な指針である。われわれの教育活動が成果を上げるためには、本校の特色を鮮明にして全教職員が同じ教育目標「社会で活躍できる女性の育成」を共有することが重要である。よって本年度の基本方針と取り組みの重点を次のとおり策定する。

II 基本方針と目標

1. 将来、一人ひとりが社会的使命を果たせる生徒の育成を図る。そのため、中学校においては「10×10プラン」を推進する。高校においては各コースの特性を全面的に生かして多様な生徒に対応した教育を実践し、学力の向上と進路実現100%をめざす。
2. 生徒にとって生涯の基軸となる、よき生活習慣を身につけさせる。そのため「自主自律」の態度を育成するとともに、「清和気品」のマナーを徹底させる。
3. 教職員が相互に高め合う職場づくりを進め、授業の充実改善に努める。また、明るい学校づくりに取り組み、生徒・保護者の「学校満足度」を向上させる。
4. 全教職員が丸一となって広報・募集活動を強く推進し、中学校及び高等学校の定員充足をめざす。

III 取り組みの重点

1. 学校の全体像に関わって

- (1) 10年先を見通した学校の将来像について検討する。
- (2) キャリアデザインコースを軌道に乗せる。
- (3) 建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みの充実に努める。
- (4) 一人一台タブレットを活かした教育を推進するとともに、業務の改善を図る。
- (5) 学校週五日制導入を機に、効率的な教育活動を心掛けるとともに、生徒の自主自律の実現を促す。

2. 学力の向上と進路実現100%をめざす

- (1) 言語活動の充実など授業の改革を進めるため、教科における研究活動を活性化し、研究授業や相互の授業参観を組織的に行う。
- (2) 観点別評価を活用し、生徒の学習意欲を高める。
- (3) 生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を拡充する。そのため学園内外の教育機関・施設等との連携を深める。
- (4) 基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導に努める。
- (5) 大学生によるメンター制度の活用により、学習機会の拡充をめざす。
- (6) 3年間の進路指導計画に基づき、進路指導部・学年・コースが連携して1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。
- (7) 中高六年一貫教育の強化に努める。
- (8) 国公立大学と関関同立の合格者10名（実数）以上、大阪総合保育大学への進学者10名以上、大阪総合保育大学短期大学部への進学者35名以上をめざす。

3. 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底

- (1) 朝の読書活動の充実と活性化を図り、自ら学ぶ姿勢を育成するとともに読解力・表現力の向上にも資する。
- (2) 年間重点目標として「挨拶」を掲げ、全教職員で指導することにより、生徒の自発的な挨拶を促す。授業規律、服装、欠席・遅刻、交通マナー、ネットマナー等の指導を組織的に進め、基本的生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る。
- (3) 学校行事における生徒の主体的な取り組みを促進する。また、自治会活動や部活動、ボランティア

活動など生徒の自主的な活動を促進する。

4. 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上

- (1) 各教科で授業評価アンケートの結果も活用して授業の充実・改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。
- (2) 新しい生徒指導提要に基づき、生徒の人格や個性を尊重し、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと成長する過程を支える生徒指導の実践を心掛ける。
- (3) すべての教育活動を通じて人権に関する教育の充実を図る。教育を受ける権利の保障、人権が尊重された教育を進めるために、特に、いじめの未然防止に努める。面談などを通じて生徒の状況把握に努め、相談等に丁寧に対応することで生徒と教員の距離を縮める。
- (4) 体罰、ハラスメントの根絶に向けた取り組みを徹底する。
- (5) 様々な方法で保護者への情報提供に努め、保護者からの相談等に丁寧に対応することで連携を深める。

5. 中学校及び高等学校の定員充足

- (1) 広報活動の「見える化」を図る。
- (2) 中学校及び高校各コースの取り組みを積極的に広報するとともに、学習成果の発表の場の公開に努める。
- (3) 部活動において、他との交わりを深め、生徒募集に繋げる。
- (4) 中学生の内部進学率の向上に努める。
- (5) 入試対策部・広報活動推進委員会を中心に全教職員一人一人が強く意識して広報活動を推進する。また、広報活動への生徒の参画を一層促進する。

(資料3)

2025年度 学校関係者評価委員会 主な協議内容

学校教育診断アンケートにおける学校満足度が近年大きく上昇するとともに、中高生徒の雰囲気、身だしなみ、表情、振る舞い、言動が非常に良くなってきている。先生方の地道な努力の成果であり、それが生徒募集上の回復にも表れていることは大いに評価できることである。

学校週五日制の導入、大学（院）生によるメンター制度の導入、キャリアデザインコースの新設など、時代に合った変革も功を奏しているのであろう。今後も、今の生徒、保護者が何を望んでいるのかをつぶさにキャッチし、必要に応じた臨機応変な変革を期待したい。

また、時代の流れとともに不登校生が増えてきている中、個人情報保護の問題がクローズアップされる状況下で互いのプライベートに踏み込まない生徒が増えてきている中、そのような生徒にどのような対応をしていくのか、という点は今後の課題となろう。

そして、中学校から高校への内部進学率が低下したのには様々な理由があるとは思いますが、つまるところそのクラスの雰囲気が影響したと考えられる。特に1学年1クラス運営を行っている状況においては、その影響はかなり大きなものとなる。クラスの雰囲気をうまく作っていくこともまた、課題と言えよう。

地に足のついた中身の濃い教育が行われているゆえ、前掲の課題対応、生徒募集上のSNS戦略強化などのさらなる取り組みを行っていけば、まだまだ生徒数を増やすことができるのではないかと。今年度の募集上の回復が単年度の増加に終わらぬよう、中高教員全体で継続して努力していただきたい。